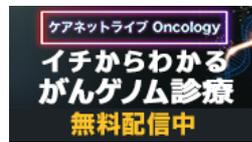
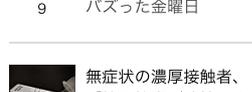
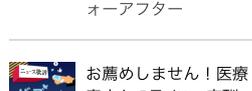
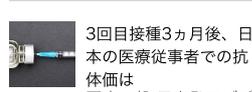
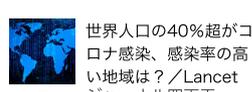
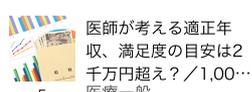
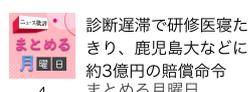
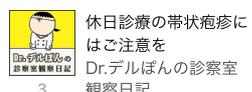
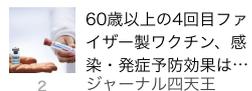
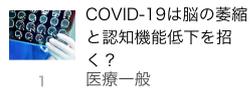


トップ &gt; ニュース &gt; 医療一般 &gt;

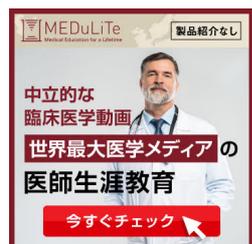


## 人気記事ランキング

週間 月間



医師閲覧ランキング



## 日本人精神疾患患者における第2世代抗精神病薬治療後のHbA1cの閾値下変化

提供元: ケアネット



ツイート

いいね! 0

公開日: 2022/05/02

第2世代抗精神病薬 (SGA) の種類により糖尿病発症リスクが異なることは、いくつかの研究で報告されている。しかし、HbA1cの閾値下の変化に焦点を当てた研究は、ほとんどない。北海道大学の澤頭 亮氏らは、6種類のSGAのうち、いずれかを使用している日本人患者を対象に、HbA1cの閾値下およびBMIの変化について調査を行った。その結果、糖尿病リスクの高い患者に対しては、プロナセリン治療が最も有用な治療法である可能性が示唆された。The Journal of Clinical Psychiatry誌2022年3月30日号の報告。



本研究は、統合失調症患者に対し、日本の血糖モニタリングガイドラインに基づいてフォローアップ調査を実施したプロスペクティブコホート研究である。2013年4月~2015年3月の期間に、ベースライン時およびSGA治療開始3カ月後の時点で、患者の人口統計学的データ、薬歴、血液検査値、体重測定値を収集した。対象は、ICD-10に基づく統合失調症、統合失調感情障害、双極性障害の患者378例。抗精神病薬による治療開始から3カ月後のHbA1cの閾値下およびBMIの変化を比較するため、多変量回帰分析を行った。

主な結果は以下のとおり。

- ・プロナセリン開始3カ月後のHbA1cの閾値下の変化は、オランザピンと比較し、有意に低かった ( $B = -0.17$ , 95%CI:  $-0.31 \sim -0.04$ )。
- ・プロナセリン ( $B = -0.93$ , 95%CI:  $-1.74 \sim -0.12$ ) およびアリピプラゾール ( $B = -0.71$ , 95%CI:  $-1.30 \sim -0.12$ ) 開始3カ月後のBMIの変化は、オランザピンと比較し、それぞれ有意に低かった。

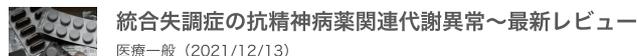
(鷹野 敦夫)

## 原著論文はこちら

Sawagashira R, et al. J Clin Psychiatry. 2022;83:21m14099.

掲載内容はケアネットの見解を述べるものではありません。(すべての写真・図表等の無断転載を禁じます。)

## 関連記事



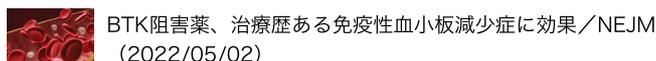
クローズアップ! 精神神経 7疾患 (2021/01/26)

このページを印刷する

ツイート

いいね! 0

## 【最新ニュース】



アキレス腱断裂のアウトカム、手術vs.保存的治療/NEJM

